

最近の活動報告

開催月日	令和5年11月23日(木)
開催場所	広島城址公園
参加者	11人

活動内容等

今回の樹木観察会は広島城跡の内堀に囲まれた中央公園内での観察会です。自然林の原生林や森と違って人工的に計画整備された公園で、樹木も寄贈やイベントなどで植えられ、人間の知恵が加わっています。

70種類1,100本あまりの樹木を見ることができ、クスノキ、ケヤキ、アラカシ、クロマツ、カエデ、ソメイヨシノ、クロガネ、エノキなど、広島城跡らしい景観が演出されています。

広島城二の丸跡の木橋を渡ると被爆樹木であるユーカリノキの前での集合です。しかし、公園内の樹木観察会で広島城と樹木がどのように景観上考慮され、計画されているか興味を抱いていたのですがユーカリの幹を見た時、見事に裏切られ、頭の中は混乱状態となりました。

明治初期の時代にオーストラリアから来日した樹木、被爆で炎上して灰の中から新たな芽を吹き、台風でも樹木は折れ、幾度の困難を経験しながら幹はねじれ、老木となった現在、樹皮は剥がれ落ちていますが葉は生い茂り、幹は力強い生命力を持っています。ユーカリの生き様に驚き、壮大な生命力に感動し、スタートから観察会の目的がくつがえってしまったのです。

この歳になると樹の名前を覚えることは苦手となり、単に樹木の観察よりは、樹木は季節や環境によって月日をかけて成長し、厳しい自然の中でも樹木の「自ら生きる生命力」や「自然美・表現力」の多様な美しい表情をじっくりと観察してみよう。そして「樹木の生き様」を樹木の個性として感受することとしました。

広島城の歴史的環境や日清戦争時の「広島大本営跡」・軍都広島の「司令部跡」等、歴史的流れの中で樹木観察を試みました。秋の観察会として広島城内の樹々は紅葉と冬支度の様相も見せ、最も美しい景観を醸し出しています。樹々の美しさに感動しながら「樹木と人間」、歴史的環境の中で日本人の自然観もじっくりと再考することとなりました。